

答申される登録(国登録有形文化財)候補物件の概要

今回、答申される登録候補物件の概要は、以下のとおりです。(※下線は用語解説あり)

旧田中家住宅別邸(きゅうたなかけじゅうたくべってい) 2件

(1)名称

- ①旧田中家住宅別邸 主屋(きゅうたなかけじゅうたくべってい おもや)
- ②旧田中家住宅別邸 門及び塀(きゅうたなかけじゅうたくべってい もんおよびへい)

(2)所在地

姫路市西新町

(3)概要

旧田中家住宅別邸は、姫路城西方の通称「龍野地区」に所在する。当地は、西国街道が町内を走る龍野町を中心に発展した地区で、近世姫路城の築城以前から町場が存在しており、近世に入ってから姫路城下の外町として発展した。

田中家は、姫路城北方の野里地区で活躍した鋳物師の田中家に連なる家系で、分家筋となる当家は、寛政年間(1789～1801)以降に当地区に居を構え、金物商とともに明治時代には煙草の専売も営んだ。旧田中家住宅別邸は、昭和8年(1933)、四代吉次郎により、本宅南東の別敷地である当地に交流の場として建設された。敷地東側の通りに面して背の高い門及び塀を設け、前栽を挟んで主屋を建てる「大塀造り」と呼ばれる形式を成している。

①主屋：昭和8年(1933)建設、昭和後期改修

木造二階建て、入母屋造り、棧瓦葺きで、正面に切妻造りの玄関を付し、南に平屋を附属する。二階は続き間の座敷で、南室に床、床脇、付書院を備える。座敷の東、南に縁を巡らして東面北寄りに高欄を付し、ガラス戸を建てて開放的につくる。床柱に杉の磨き丸太を用いるなど上質な主屋で、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」として評価された。

細部解説：外壁は、真壁漆喰塗り、腰を堅板(一部トタン)張りとし、一階にも床付の座敷を設ける。南の平屋は、正面に鉄扉、背面に堅格子の虫籠窓を開き、かつては業務用の倉庫として用いられた。



外観 東面



内部 2階座敷

②門及び塀：昭和8年(1933)建設

主屋の前栽を囲い、通りに東面して建つ。北寄りに開く門は、軒先を銅板葺きとした棧瓦葺きの庇を前後に付し、門口に吹寄せ格子戸を建て、上部は箄欄間とする。塀は棧瓦葺で、外壁は真壁漆喰塗りとし、腰に豎板を張る。格狭間形の窓を開いて竹の組子で飾る凝った意匠の塀で、通りの景観をつくるものとして、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」として評価された。

細部解説：門口の庇は出桁造りで、吹寄せ垂木を配す。格子戸の内側には、杢板の両開き板戸を吊る。



外観 東面

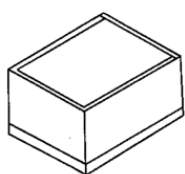


門 庇 軒裏

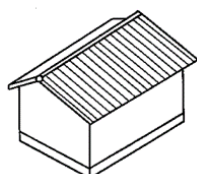
<参考>

| ※用語解説 | |
|--------------|--|
| 前栽(せんざい) | 草木を植えた庭園で、特に座敷の前にある庭を指す。 |
| 大塀(だいべい) 造り | 通りに面して高塀を巡らし、前栽を挟んで主屋を建てる町屋の形式。主に京阪地方で見られる。 |
| 切妻(きりづま)造り | 切妻屋根(棟を頂点としてふたつの傾斜面が合わさった山形の屋根)とした建物の形式。傾斜の付いた屋根側を平側、その端側を妻側という。 |
| 寄棟(よせむね)造り | 切妻屋根の妻側にも傾斜をつけた屋根とした建物の形式。 |
| 入母屋(いりもや)造り | 上部を切妻造(前後2方向に勾配をもつ)、下部を寄棟造(前後左右4方向に勾配をもつ)の屋根とした建物の形式。 |
| 棧瓦葺(さんがわらぶ)き | 丸瓦と平瓦を一つにした「棧瓦」を使用した屋根の葺き方。 |
| 高欄(こうらん) | 建物の縁、須弥壇(仏像などを安置する台)の端にある手摺。欄干。 |
| 真壁(しんかべ) | 柱、梁組の面内に壁を仕上げ、柱などは現れたままの壁の形式。 |
| 大壁(おおかべ) | 柱や梁などを覆い隠すように仕上げた壁の形式。 |
| 虫籠窓(むしこまど) | 虫籠のように縦格子を入れた窓の形式。町屋などに見られる。 |
| 吹寄せ格子・垂木 | 2本ずつを一組にして、間隔をあけて配した格子・垂木。 |
| 箄欄間(おさらんま) | 細い棧を、縦に細かく配した欄間の形式。 |
| 格狭間(こうざま) | 仏壇などの台座に施される曲線で構成された装飾の一種。 |
| 出桁(だしげた)造り | 柱から突き出した腕木に桁(出桁)を渡し、垂木をかけた軒の形式。民家や簡易な門などで多く用いられる。 |

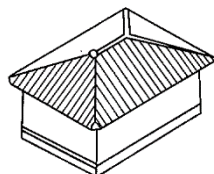
屋根の形式 — 建築用語図解辞典より — (■ 今回関連の図)



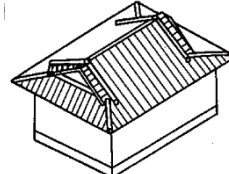
陸屋根



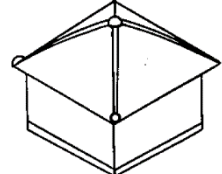
■切妻屋根



寄棟屋根



■入母屋屋根



宝形屋根